



Waku-waKU

—子どもの放課後施設—

K03101 土岐 裕太郎

I. はじめに

「子供にとって、遊びは大きな学びの場である」

子どものころ私たちは、学校が終わった放課後の時間、明日のことも考えず、チャイムが鳴るまで、ただガムシヤラに遊び楽しんだ。

そして私たちは、遊びを通して他人とのコミュニケーションの方法や、遊びの中で自ら経験することによってたくさんのことを学んだ。遊びは創造力や社会性、そして、個々の可能性を開いていくうえでなくてはならないものだと思う。

II. コンセプト

II-1 子どもの居場所

先にも述べたが、子供にとって、遊びは大切な要素であり、学びの場である。しかし、その拠点も少子化によって子どもの数が減少し、子ども一人一人が使える空間が増えたように思うが、実際は子どもたちの活動拠点は昔に比べ減ってきているといえる。都市化による空き地の減少、公園などのボールを使っはいけないなどのルールによって十分に遊ぶことができないでいる。だからこそ、子どもたちには自由に考え遊ぶことのできる活動拠点となる空間・自由にボールを使ったり走りまわる事の出来る大きな広場的空間が必要である。

また、子供もひとつの個性であると考えた時、彼らにも自分だけの空間が必要であると考ええる。例えば、子供たちが長時間過ごす場所である「住宅・学校」において、「住宅」は「勉強部屋」として子供部屋を作ることが多いが、「遊び部屋」として子供部屋を考える親は少なく、「学校」もまた、まだまだ遊び空間として計画されているところは少ない。だから、子供たちが自分で考えて遊ぶという楽しさを感じるための居場所みたいなもの、子供たちの目線で子供たちにしかわからない秘密基地的な存在が必要ではないかと考える。

指導教員 伊藤 洋子 教授

板橋交通公園

大山小学校

都営幸町アパート

II-2 少子化による学校地の必要性

少子化の影響で児童数が減少し学校の統合・廃校が進んできた。統廃合といえはかつては人口の流出によって過疎化が進んだ「地方」での現象であった。しかし、現在は人口の絶対数の減少が原因となり「全国」に及んでいる。使わなくなった学校は、宿泊研修施設や公民館、フリースクールなどに再利用されているが、まだまだ利用の価値があると思う。もともとは子どものための空間だったことから、この余った土地をうまく使って子どものための遊び空間に再利用できないか考える。

以上より少子化により必要なくなった学校の土地に、大きな広場的空間・秘密基地的子どもの居場所の要素を持つ子どものための遊び空間を提案し、子どもの新たな活動拠点とする。

III 敷地概要

板橋区幸町19・21

板橋区の防災広域避難場所に指定されている都営幸町アパート一帯の大山小学校と板橋交通公園を敷地とする。もともと、都営幸町アパート一帯は、道路を挟んで公園・小学校と中学校・都営アパートで構成されていて、子どもにとって大切な、暮らす、教育、遊ぶの三要素がそろっている場所であり、子どもたちが集まりやすい場所だといえる。

この板橋区は、北部に比べ南部の小学校の密度が非常に高い。特にこの幸町周辺は大山小学校の他に、自転車で10分ぐらいでいける圏内に四つの小学校が存在する。昔は池袋に近いことと、住宅地であることから、必要な数だったかもしれない。しかし、少子化による児童数の減少、余裕教室の増加、建物の老朽化の今の現状から、その必要はないといえ、その中心にある大山小学校を敷地とした。

IV. 提案: Waku-waKU

子どもにはやはり楽しく遊んでもらいたい。しかし、遊びだけではなく教育という部分も忘れてはいけない。そこで今回は、小学生の放課後をターゲットとする。

現在、多くの子供たちが習い事をしている。それは、学業である学習塾であり、才能を伸ばすためのスポーツ・芸術のものである。

その商業的産業である習い事と、どんな子どもでも遊ぶことができる児童館をつくり、子どものだけの空間を提案する。

i. 遊具の挿入

教育だけではなくプラスαの要素として遊びである遊具を建物、動線に挿入する。

ii. 子どもミュージアム

宝物や、習い事で作った作品など自分の好きなものを展示することができる展示ブースを建物の中に組み入れる。それにより、建物を一つの展示ブースとした時、子どもたちの展示物によってこの建物はその時々でさまざまな形に変化していく。

iii. 子どもスケール

小学生の平均身長である1500mmを基準として、子どもだけの空間を作り出す。

参考文献:

『子供は無限に伸びる』 陰山英男 PHP研究所
『子ども居場所』 日本建築学会 建築資料研究社
『建築設計資料 16 学校』 建築資料研究社
『建築設計資料 67 学校2』 建築資料研究社
『幼稚園・保育園/児童館』 高木幹朗 他

平面図

scal 1:800

A棟 1階平面図

B棟 1階平面図

D棟 1階平面図

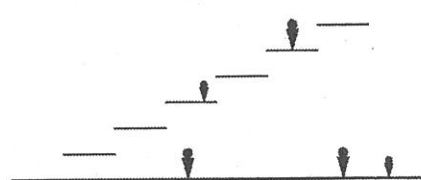
D棟

C棟

site

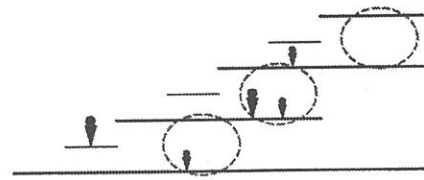
子どもスケール

・1500mm空間スラブ



acution 1

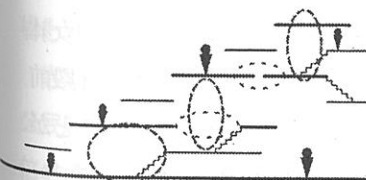
小学生の平均身長は約1500mmである。その高さを基準として1500mmの空間ごとにスラブを配置していく



acution 2

積み重ねたスラブを内部に伸ばしていき、そこに新しい空間を作り出す

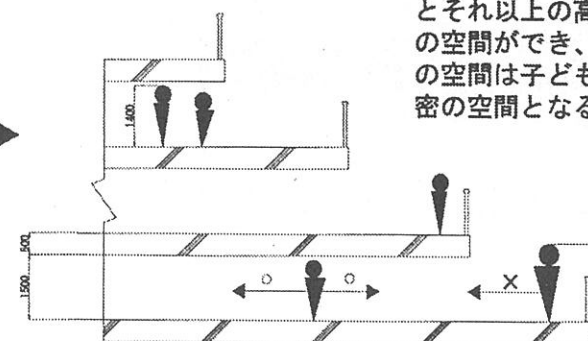
○ 空間



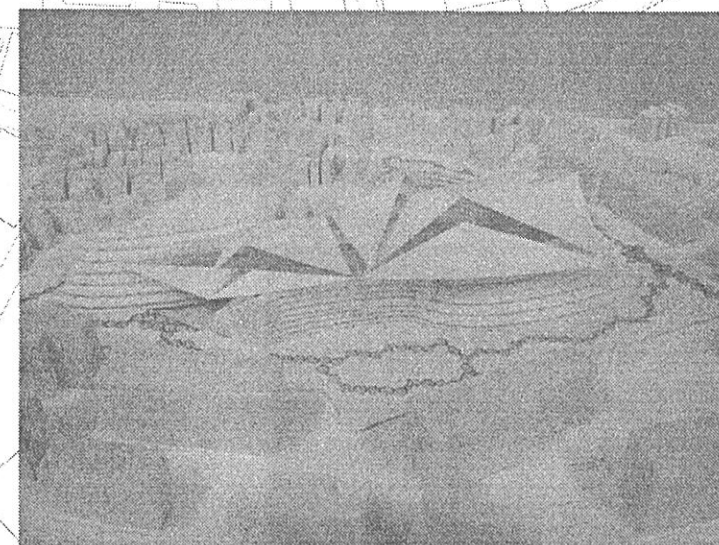
acution 3

伸ばしたスラブにvoidをあけ、ランダムな空間を作り出す。

○ 空間
○ void

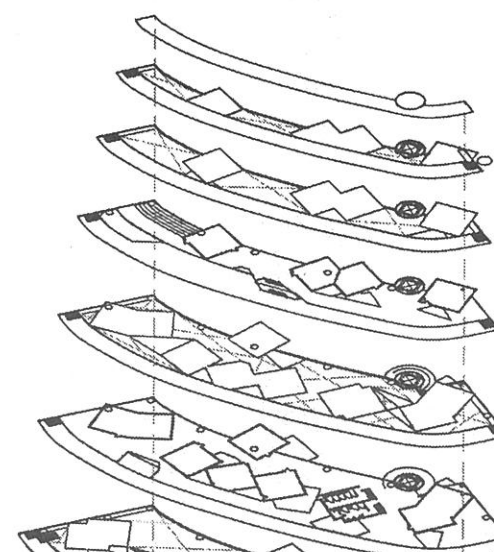


結果、1500mmの空間とそれ以上の高さの二つの空間ができ、1500mmの空間は子どもだけの秘密の空間となる。



A棟

B棟



D棟平面アクソメ図